

サロンパス®に使われる原料

1934年
当時の原料

サロンパス®は、77年前(1934年)に発売されました。当時、サロンパス®に使われる原料の多くは、再生産可能な資源から得ることができました。例えば、メントールはハッカ草から、カンフルはクスノキから、サリチル酸メチルはカバノキから得られました。また、有効成分の“貯蔵庫”である膏体は天然ゴム、膏体を塗布する基布には綿布が使われました。



クスノキ

クスノキの葉や枝などのチップを水蒸気蒸留すると結晶としてカンフルを得ることができます。

口ウ状の昇華性結晶で、血行促進作用や鎮痛作用、消炎作用などがあります。



ハッカ草

シソ科の多年草であるハッカ草を、水蒸気蒸留して薄荷油を抽出します。さらにこれを再結晶することで無色のメントールを作ります。

局所血管拡張作用、皮膚刺激作用等を有し、皮膚に触れると冷やりとした感覚をもたらします。



アズサ

サリチル酸メチルは、アズサ(カバノキ科)、シラタマノキ(ツツジ科)などの植物に含まれており、水蒸気蒸留で抽出されます。

無色の液体で、鎮痛、鎮痒作用があります。また、末梢血管を拡張して、血流を改善する作用も持っています。



ゴム

ゴムノキの樹液には、cis-ポリイソプレンと呼ばれる物質が、水溶液の状態が存在します。これを集めて精製し、凝固乾燥させたものが天然ゴムです。これを使ってサロンパス®の膏体が作られました。



ワタ

当時、日本の木綿輸出量は世界一でした。サロンパス®の基布は、この木綿を使ったカナキン織(薄地の平織り)の綿布でできていました。



現在の原料

カンフルは、クスノキの抽出物から松の樹脂を使った合成品に代わりました。メントールは、多年草のハッカ草から得られる天然ハッカを引き続き使っています。サリチル酸メチルは、ほとんど合成品に代わりました。

サロンパス®の基布は、土中で自然分解するスフを使っています。サロンパス®の膏体は、天然ゴムの他に合成ゴムも使用しています。私たちは、再生可能な資源と、環境負荷低減できる原料を使い分けながら、持続可能なサロンパス®の生産を目指しています。



カンフル

現在は、マツヤニなどから得られるα-ピネンを使って合成されています。

※衣服の防虫剤や防腐剤にも、「樟脳」として使用されています



メントール

天然メントールが主に使われていますが、供給を上回る需要があり、合成メントールも増えています。



サリチル酸メチル

現在は、サリチル酸(解熱・鎮痛物質)とメタノールから合成されています。

※ヒポクラテスの時代から、ヤナギの解熱・鎮痛作用が知られています。サリチル酸は、その主成分です。



ゴム

天然ゴム(NR)はcis-ポリイソプレンを主成分とする高分子物質です。化学的に重合させた合成ゴムも使用されています。

木材パルプをアルカリ処理した後、スフが作られます。サロンパス®の基布には、この繊維が使われています。吸湿性、放湿性に優れていることから、最近では高級裏地などに用いられます。

※スフは、主成分が綿などのセルロースと同じであり、土に埋めると分解・消滅してしまいます。



スフ